

専修大学 Si データサイエンス
教育プログラム(基礎リテラシーレベル)

自己点検・評価報告書

2023(令和5)年度

専修大学 数理・データサイエンス・AI 教育

自己点検・評価実施委員会



1 自己点検・評価の実施体制

専修大学では、令和4年度以降入学者を対象として、ビッグデータやAIによって駆動される現代の情報化社会の変化について理解し、基礎的な情報処理・データ分析能力・情報倫理を身につけることを目的に、Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）（以下、「Si データサイエンス教育プログラム」という。）を新設した。同プログラムは令和5年度も継続して以下の実施体制の下、自己点検・評価活動を実施した。

役割	委員会等
プログラムの運営責任者	専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会
プログラムの改善・進化	専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会
プログラムの自己点検・評価	専修大学 自己点検・評価委員会 数理・データサイエンス・AI 教育自己点検・評価実施委員会

2 自己点検・評価の方法と点検・評価項目

自己点検・評価に際しては、「Si データサイエンス教育プログラム」の質向上の観点から、評価の視点を【学内からの視点】と【学外からの視点】に大別し、さらに、それぞれに下位項目を設定した。

【学内からの視点】

- (1) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果について
- (2) Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について
- (3) Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

【学外からの視点】

- (1) 産業界からの視点を含めた「Si データサイエンス教育プログラム」の教育内容・方法について

3 自己点検・評価結果

【学内からの視点】

- (1) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果について

- 1) 学生アンケートの調査概要（添付資料①参照）

専修大学の「Si データサイエンス教育プログラム」は、添付資料①P3 のとおり、各学部・学科によって異なる開講科目¹を設置していることに特色がある。

¹ この「開講科目」の定義は、各学部が Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）として開講する授業科目のことを指す。

この度、本学では本プログラムにおける教育の質向上を図ることを目的に、令和5年10月23日（月）から11月6日（月）までの間、大規模な学生アンケート調査を実施した。アンケート対象者は、本プログラムを受講する令和5年度入学者とした。調査方法は、本学で導入しているLMS（in Campus）のアンケート機能で実施した。設問数は、全13問で構成されており、うち単一選択形式（ラジオボタン）11問、記述式2問で構成した。

回答結果については、添付資料①P4のとおり、対象者3,068名のうち、776名が回答した。なお、回答率は25.3%であった。

2) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果（添付資料②参照）

本学では、学生アンケートを通じて、Si データサイエンス教育プログラムの学修成果を測定した。評価尺度は、5段階評価（「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「やや当てはまらない」「当てはまらない」とした。設問項目としては、①【意欲】②【理解度】③【成長実感】④【推奨度】⑤【希望】を設定した。

《全学部集計の結果 ～単一選択式～》

単一選択式のアンケート結果について、学生の【意欲】を確認するために設定した、**設問1**「Si データサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。」については、肯定回答率（「当てはまる」「やや当てはまる」）の割合が68.6%となり、学生がプログラムに意欲的に参加することができた。

続いて、学生の【理解度】を確認するために設定した、**設問2**「データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。」、**設問3**「『数理・データサイエンス・AI』が、今後の社会における『読み・書き・そろばん』に相当することを理解できた。」、**設問4**「今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。」、**設問5**「AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。」、**設問7**「個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。」、**設問8**「データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。」については、**設問7**を除いて、肯定回答率が50%を超える結果となった。このことから、本学学生の数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの理解度については、学修成果に照らしても所期の目的を十分達成したといえる。

その一方で、令和4年度に引き続き肯定回答率が低く、48.6%に沈んだ**設問7**については、新入生には理解が難しい授業内容であることが判明した。この点については、課題であると認識している。

続いて、学生の【成長実感】を確認するために設定した設問6「データリテラシーを向上できた。」、設問9「Si データサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。」については、とりわけ肯定回答率が高い結果（設問6：76.0%、設問9：82.5%）となった。このことから、本学学生が本プログラムを通じて、自分自身の成長を実感することができた証左といえる。

続いて、学生の【推奨度】を確認するために設定した、設問10「このSi データサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。」については、肯定回答率が66.1%となり、学生の成長実感とも相まって、本プログラムを高く評価していることが確認できた。

最後に、学生の【希望】を確認するために設定した、設問11「今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。」については、肯定回答率が64.4%となり、学生が本プログラムの授業内容・水準の向上を求めていることが確認できた。

《全学部集計の結果 ～記述式～》

記述式のアンケート結果について、設問12では、本プログラムにおける学生の評価を確認することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、304名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「学べる」「できる」「役立つ」といった学生の成長実感のキーワードが明確に抽出されたことが、本プログラムの大きな成果であるといえる。

さらに、共起ネットワークを分析した結果、学生の成長実感のキーワードが、AI やエクセルを含む多様なキーワードと結びついていることが看取できた。

以上の結果、本委員会では、大学全体として本プログラムにおける授業内容・学生指導・学修成果について、その有効性を確認することができた、との結論に至った。

最後に、設問13では、本プログラムにおける課題を抽出することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、127名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「わかりやすい」「わかる」といったキーワードが抽出されたことから、わかりやすさを重要視していることが判明した。

さらに、共起ネットワークを分析した結果、「もっとレベルにあったクラスで学びたい」といった一部の学生からの声を抽出することができたため、今後は、わかりやすい教授方

法の工夫を継続することが大切である。

《対象科目別集計の結果》

対象科目別集計では、「情報入門 1・2、情報基礎 I・II」、「情報処理入門、情報リテラシ基礎演習、情報システム入門、統計入門」、「情報分析基礎、情報分析演習、ネットワーク情報総論 1」および「日本語情報処理 1・2」の 4つのグループの対象科目ごとに、設問 1～11 の集計を行い、全学部集計との比較を行った。

まず、最も履修者数が多い「情報入門 1・2、情報基礎 I・II」においては、全ての設問において、全学部の肯定回答率を上回る結果となった。

続いて、経営学部で履修する「情報処理入門、情報リテラシ基礎演習、情報システム入門、統計入門」においては、全ての設問において、全学部の肯定回答率をやや下回るが、全体的な傾向はほぼ同様であった。

続いて、ネットワーク情報学部で履修する「情報分析基礎、情報分析演習、ネットワーク情報総論 1」においては、設問 11 を除き全ての設問において全学部の肯定回答率をやや下回るが、全体的な傾向はほぼ同様であった。

最後に、国際コミュニケーション学部日本語学科で履修する「日本語情報処理 1・2」においては、一部の設問は全学部の肯定回答率を上回っているが、全体的な傾向はほぼ同様であった。

(2) Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について

当該プログラムに関わる授業科目の担当者が、学生に対して適切な教育内容を提供することができるよう、運営委員会を通してコミュニケーションを取り、支援する仕組みを運用することができた。

また、応用基礎レベルのオンデマンド教材として、モデルカリキュラムに準拠した 15 分程度の動画教材 3 本を、情報科学センター教育企画室監修のもと作成し、令和 5 年の授業で活用できるようにした。さらに、数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアムのワークショップなどを、運営委員を通じて紹介する活動を行っている。

(3) Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

令和 5 年度の情報入門 1 (選択科目) は、履修対象者数 2,829 名に対して、最終的な履修者数は 1,978 名 (履修率 69.9%) に留まった。履修希望者は 2,344 名であったのに対して、特定の曜日・時限に履修希望が集中していたため、希望者のうち 84.4% 程度しか実際に履修することができなかったことが判明した。したがって、令和 6 年度に向けては令和 5 年度のデータ結果 (学生の履修状況) に基づき、開講曜日・時限を見直し、履修率の改善に努めている。

その一方で、当該プログラムの履修率向上を目的に、令和 5 年度入学者に対しては、プ

プログラム専用のホームページや、学修ガイドブックでのプログラム紹介、4月のオリエンテーションガイダンスでのリーフレットの配布を通して、プログラムの紹介を行った。

【学外からの視点】

(1) 産業界からの視点を含めた「応用基礎レベル」の教育内容・方法について

現在の社会を取り巻く環境を概観すれば、企業では、事務作業の効率化を進めるためのIT化やペーパーレス化はもとより、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進による業務改革などの動きが大きくなり、「数理・データサイエンス・AI教育」の重要性がますます増している。そのような環境変化を迎える最中において、専修大学の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(基礎リテラシーレベル)」は、「基礎リテラシーレベル」に加え、先行するネットワーク情報学部以外の7学部でも令和5年度入学者から「応用基礎レベル」を開講し、学生の学びのニーズに応える体制を整備している点を評価する。

一方で、社会が大きく変動していくことが見込まれる中で、本教育プログラムは、以下の改善を行う必要があると考える。

第一に、修了要件となっている個々の授業に加え、本教育プログラムの明確な到達目標を定めること。

第二に、定めた到達目標を含め、本教育プログラムの存在や意義を学外とりわけ産業界に広く発信すること。

第三に、社会や産業界の動向に学生がますます意識を向け、何を学ぶべきかを気づかせる仕組みを作ることが挙げられる。

社会状況が大きく変化していく中で、企業でもIT化や最新ツールの導入などが進み、課題の発見から始め、問題を突き詰めて解決するというサイクルを繰り返している。したがって、大学側は本教育プログラムを通じ、学生に対し知識一辺倒ではなく、課題(テーマ)を意識させ、それをどのように解決・改良していくか創意工夫する経験をさせることが求められる。

太田油脂株式会社 専務取締役営業部長 後藤 康夫 氏

産業界から見て、数理・データサイエンス・AI教育は現代の「読み・書き・そろばん」であることを日々強く感じると同時に、学生時代にこのような教育を受けられる専修大学生が大変羨ましい。

現在、弊社でもデジタル人材の育成に注力しているが、知識やスキルの個人差が大きく、社内研修時もレベル設定に苦慮している。また、業務の現場ではツールを使いこなすスキルに長けていても、ビジョン・ストーリーを描くことが苦手な場合が多い。昨年も述べたように、ぜひデザイン思考も併せ持つ人材の育成に努めて欲しい。

併せて、以下の諸点について改善を求めたい。

第一に、ノーコードまたはローコードツールの積極活用である。近年弊社では、専門的なプログラミング知識を前提としないこれらのツールを活用し、アプリ開発の一部を内製化している。「プログラミング」には得手不得手があるため、本教育プログラムからのドロップアウトを抑止するため大学でも積極的にそれらのツールを活用し、学生に成功体験を積ませて欲しい。

第二に、アンケート結果の精緻な分析である。令和4年度と5年度の結果に大きな差異は見られないが、その背景を検証し、プログラムの質向上に努めていただきたい。特に設問3【「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することが理解できた】は、肯定回答率の向上にと努めて欲しい。

第三に、本教育プログラムの認知度向上である。専修大学卒業生と交流する機会があるが、認知度が低い。社会に広く発信していただきたい。

広島電鉄株式会社 DX・IT戦略室 係長 進矢 光明 氏

4 添付資料

- ① 令和5年度学生アンケート分析結果報告書【Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）】

以 上

令和5年度学生アンケート 分析結果報告書

【Siデータサイエンス教育プログラム(基礎リテラシーレベル)】

専修大学 数理・データサイエンス・AI教育
自己点検・評価実施委員会

1. 調査概要と回答結果

調査概要①

- 実施目的：「Siデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）」における教育の質向上を図るため
- アンケート対象者：「Siデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）」を受講する令和5年度入学者
- 実施期間：令和5年10月23日（月）～11月6日（月）
- 調査方法：本学で導入しているLMS（in Campus）によるアンケート調査
- 設問数：全13問（うち、単一選択形式（ラジオボタン）11問、記述式2問）

調査概要②

OSiデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）の対象科目

経済学部・・・情報入門Ⅰ・Ⅱ

法学部・・・情報入門Ⅰ・Ⅱ

経営学部・・・情報処理入門、情報リテラシ基礎演習、情報システム入門、統計入門

商学部・・・情報基礎Ⅰ・Ⅱ

文学部・・・情報入門Ⅰ・Ⅱ

ネットワーク情報学部・・・情報分析基礎、情報分析演習、ネットワーク情報総論Ⅰ

人間科学部・・・情報入門Ⅰ・Ⅱ

国際コミュニケーション学部日本語学科・・・日本語情報処理Ⅰ・Ⅱ

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科・・・情報入門Ⅰ・Ⅱ

回答結果

学部	対象者数	回答数	回答率
経済学部	453	55	12.1%
法学部	471	98	20.8%
経営学部	592	89	15.0%
商学部	714	169	23.7%
文学部	233	46	19.7%
ネットワーク情報学部	257	200	77.8%
人間科学部	172	30	17.4%
国際コミュニケーション学部 日本語学科	73	66	90.4%
国際コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科	103	23	22.3%
合計	3,068	776	25.3%

2. 全学部集計

全学部集計 設問1～11【単一選択形式】

設問	設問内容										
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。										
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
7	【理 解 度】 個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	22.9%	21.4%	17.0%	22.2%	26.3%	28.6%	13.0%	23.3%	44.7%	24.7%	22.7%
やや当てはまる	45.6%	48.7%	39.8%	49.4%	48.5%	47.4%	35.6%	46.1%	37.8%	41.4%	41.8%
肯定回答率	68.6%	70.1%	56.8%	71.5%	74.7%	76.0%	48.6%	69.5%	82.5%	66.1%	64.4%
どちらともいえない	22.8%	20.9%	28.7%	18.9%	18.2%	16.9%	30.9%	20.4%	12.9%	25.0%	23.7%
やや当てはまらない	5.8%	5.3%	10.1%	5.9%	3.9%	3.6%	13.1%	6.2%	2.3%	4.3%	7.3%
当てはまらない	2.8%	3.7%	4.4%	3.6%	3.2%	3.5%	7.3%	4.0%	2.3%	4.6%	4.5%

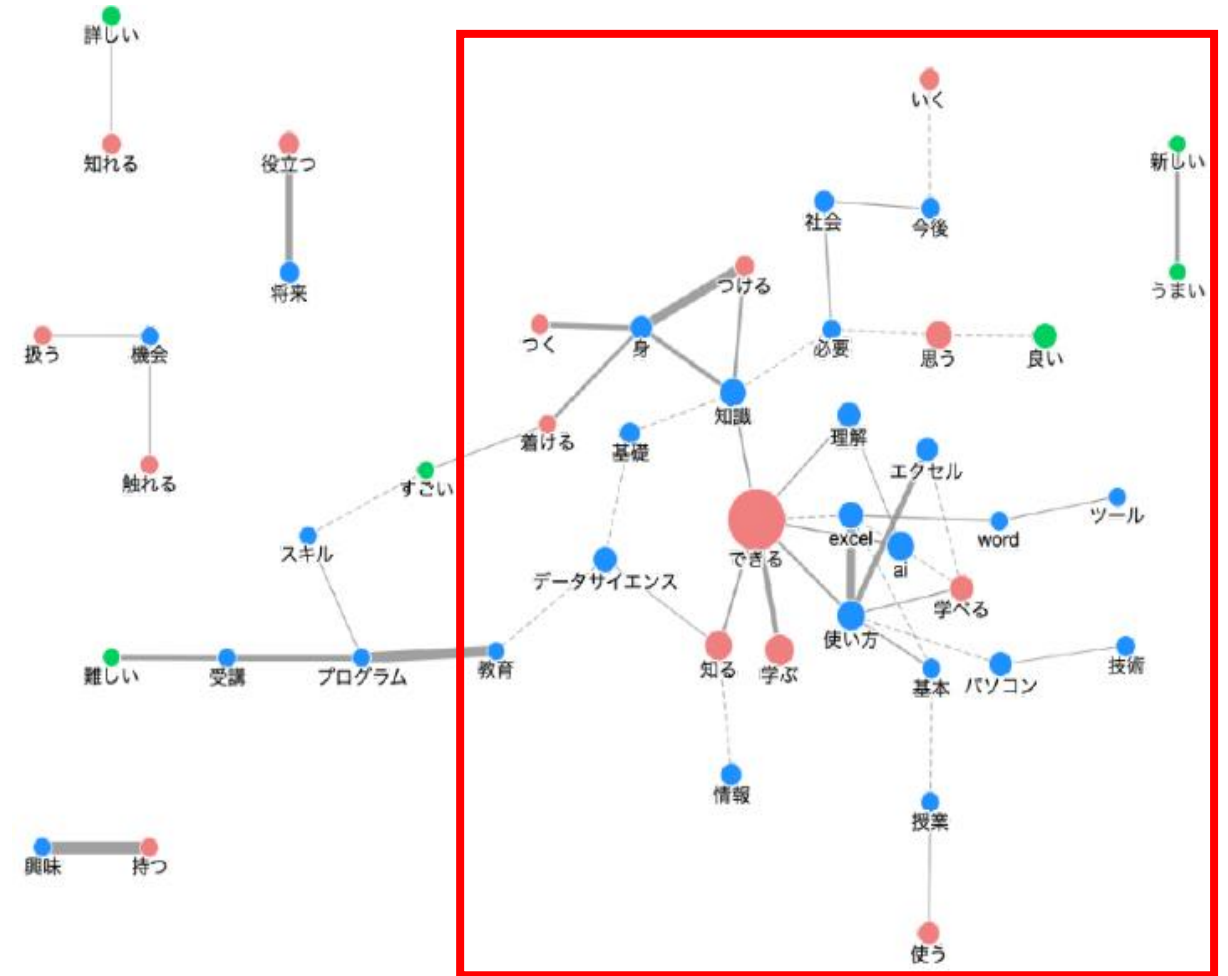
設問7を除いて、肯定回答率50%を超えている。とくに設問6と設問9に対しての肯定回答率が高い。

設問12【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
使い方	90.67	54	できる	26.67	149
ai	236.51	51	学ぶ	69.95	47
知識	61.07	47	知る	4.34	42
excel	270.88	41	思う	0.82	38
データサイエンス	255.17	35	学べる	98.10	29
理解	16.82	35	使う	0.84	19
データ	25.88	33	役立つ	35.12	18
パソコン	19.84	30	感じる	1.74	18
エクセル	86.82	28	いく	0.44	15
身	17.45	28	つける	0.68	13
情報	4.88	21	知れる	5.23	12
社会	14.62	20	役に立つ	10.92	11
基礎	30.71	18	つく	0.55	10
将来	14.09	18	出来る	0.27	10
活用	23.41	17	深める	15.79	9

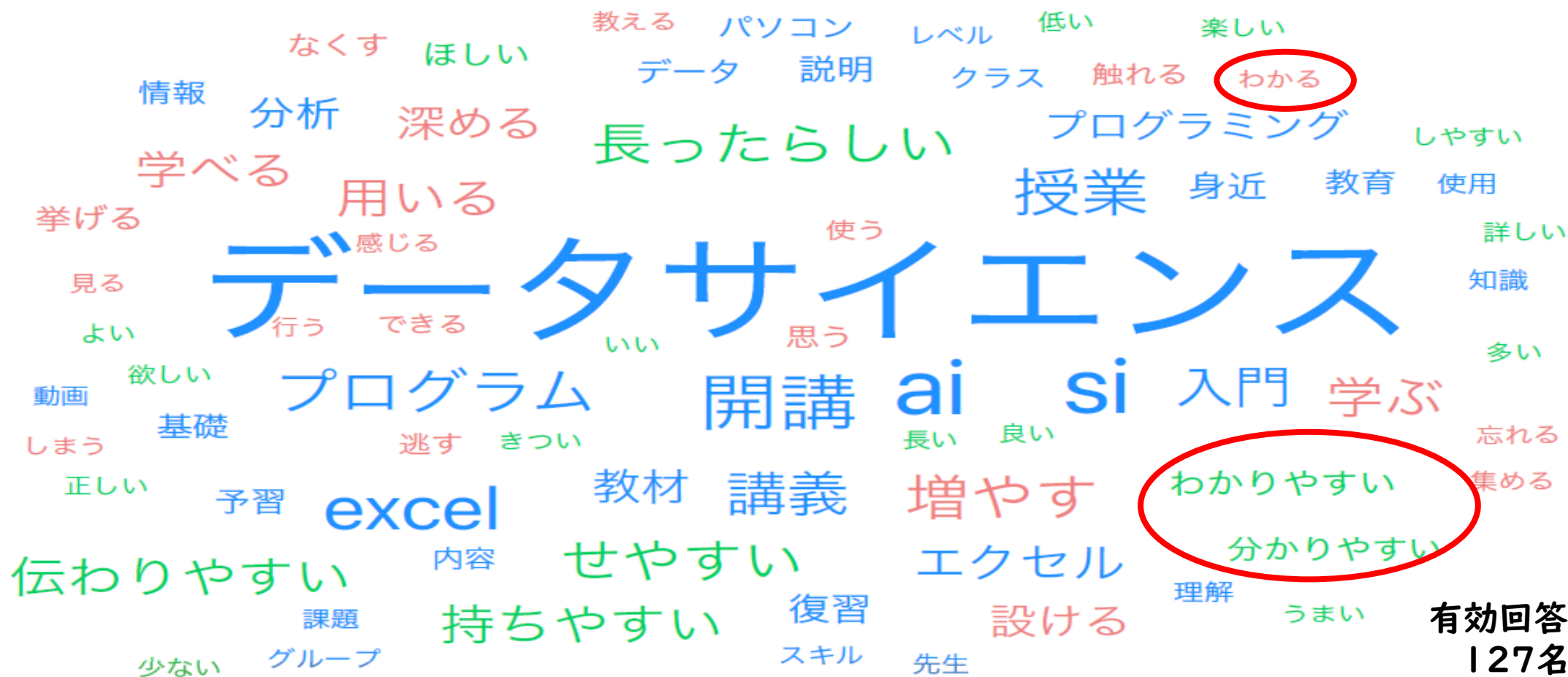
■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
良い	0.98	27	---	---	---
よい	0.35	13	---	---	---
詳しい	2.11	10	---	---	---
多い	0.29	10	---	---	---
深い	0.35	4	---	---	---
わかりやすい	0.62	3	---	---	---
うまい	0.09	3	---	---	---
難しい	0.07	3	---	---	---
いい	0.01	3	---	---	---
しやすい	0.26	2	---	---	---
細かい	0.20	2	---	---	---
正しい	0.18	2	---	---	---
新しい	0.03	2	---	---	---
強い	0.02	2	---	---	---
面白い	0.02	2	---	---	---



共起ネットワークにおいて、「できる」「知る」「学べる」といった学生の成長実感が、AIやエクセルを含む多様なキーワードと結びついていることが看取できる。

設問13【記述式】

Siデータサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。



有効回答数
127名

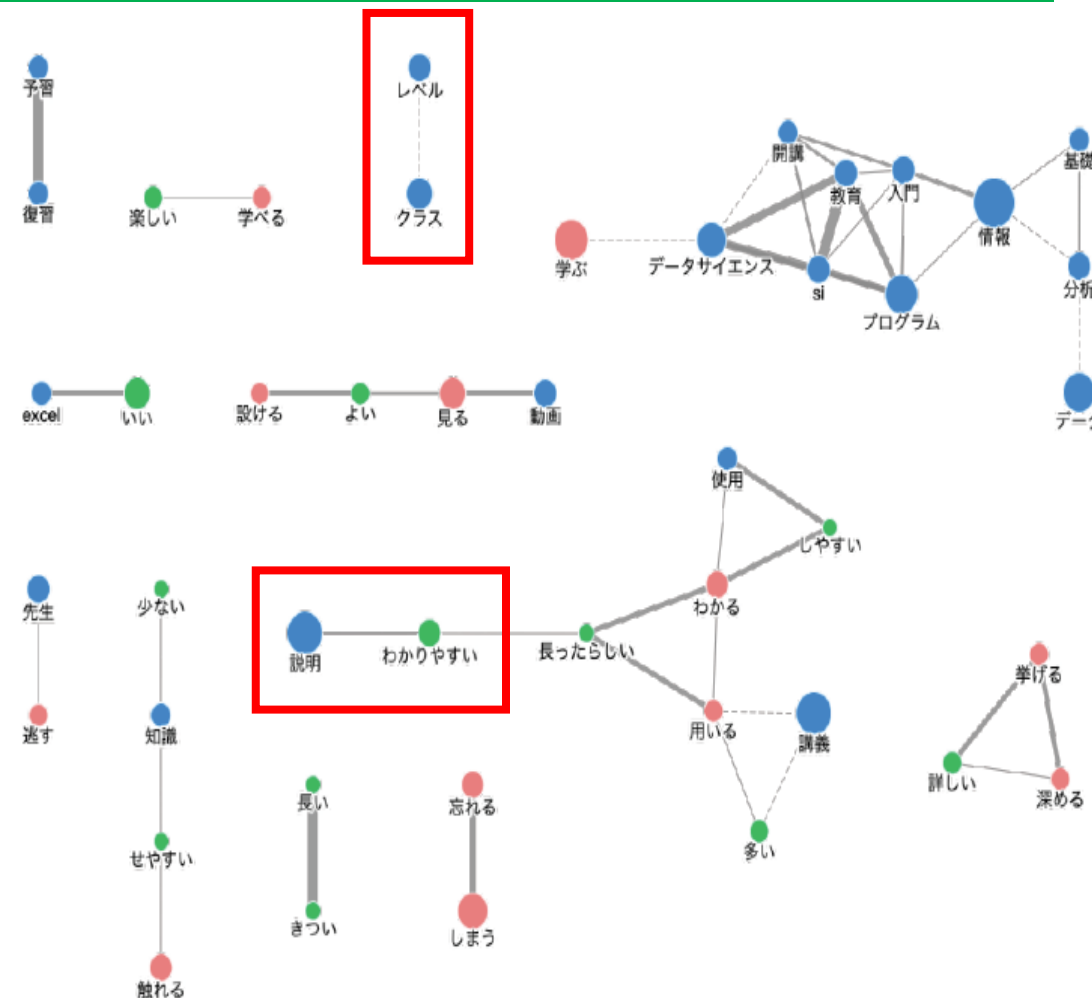
一方で、「わかりやすい」「わかる」などのキーワードが抽出され、学生がわかりやすさを重要視していることが判明した。

設問13【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
授業	7.65	19	思う	0.38	26
情報	1.15	10	できる	0.15	11
講義	6.46	8	増やす	2.31	9
説明	1.63	8	使う	0.15	8
ai	14.68	7	学ぶ	1.80	6
プログラム	6.86	7	しまう	0.04	5
データ	1.44	7	教える	0.10	4
内容	0.76	7	見る	0.01	4
データサイエンス	28.74	6	触れる	0.30	3
パソコン	0.95	6	感じる	0.05	3
理解	0.57	6	忘れる	0.04	3
クラス	0.77	5	行う	0.04	3
si	14.47	4	わかる	0.02	3
入門	5.35	4	用いる	1.53	2
エクセル	4.23	4	学べる	1.45	2

■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
ほしい	0.45	12	---	---	---
欲しい	0.11	7	---	---	---
良い	0.05	6	---	---	---
いい	0.01	4	---	---	---
わかりやすい	0.62	3	---	---	---
分かりやすい	0.46	2	---	---	---
詳しい	0.09	2	---	---	---
多い	0.01	2	---	---	---
楽しい	0.01	2	---	---	---
よい	0.01	2	---	---	---
せやすい	2.12	1	---	---	---
長ったらしい	1.96	1	---	---	---
持ちやすい	1.77	1	---	---	---
伝わりやすい	1.61	1	---	---	---
しやすい	0.07	1	---	---	---



共起ネットワークにおいて、「もっとレベルにあったクラスで学びたい」といった一部の学生からの声を抽出することができ、わかりやすい教授方法の工夫を継続することが大切である。

3. 対象科目別集計

「情報入門Ⅰ・Ⅱ・情報基礎Ⅰ・Ⅱ」、「情報処理入門、情報リテラシ基礎演習、情報システム入門、統計入門」、「情報分析基礎、情報分析演習、ネットワーク情報総論Ⅰ」および「日本語情報処理Ⅰ・Ⅱ」の4つのグループの対象科目ごとに、設問Ⅰ～Ⅱの集計を行い、全学部集計との比較を行う。

【情報入門Ⅰ・Ⅱ、情報基礎Ⅰ・Ⅱ】集計

設問	設問内容										
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。										
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
7	【理 解 度】 個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	25.2%	21.6%	20.2%	24.2%	27.6%	30.4%	14.3%	25.7%	48.5%	30.6%	25.2%
やや当てはまる	48.2%	50.4%	42.5%	50.4%	49.6%	47.3%	37.8%	46.1%	38.7%	41.3%	40.4%
肯定回答率	73.4%	72.0%	62.7%	74.6%	77.2%	77.7%	52.0%	71.7%	87.2%	72.0%	65.6%
どちらともいえない	20.0%	20.2%	24.2%	18.8%	18.1%	16.9%	29.5%	20.0%	10.0%	20.7%	23.0%
やや当てはまらない	5.2%	5.0%	9.3%	5.0%	2.6%	3.1%	13.3%	5.0%	1.7%	3.6%	7.1%
当てはまらない	1.4%	2.9%	3.8%	1.7%	2.1%	2.4%	5.2%	3.3%	1.2%	3.8%	4.3%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	68.6%	70.1%	56.8%	71.5%	74.7%	76.0%	48.6%	69.5%	82.5%	66.1%	64.4%

全ての設問において、全学部の肯定回答率を上回っている。

【情報処理入門、情報リテラシ基礎演習、情報システム入門、統計入門】集計

設問	設問内容										
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。										
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
7	【理 解 度】 個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	21.3%	18.0%	16.9%	15.7%	28.1%	34.8%	9.0%	19.1%	51.7%	22.5%	16.9%
やや当てはまる	33.7%	44.9%	28.1%	40.4%	36.0%	37.1%	29.2%	40.4%	24.7%	39.3%	46.1%
肯定回答率	55.1%	62.9%	44.9%	56.2%	64.0%	71.9%	38.2%	59.6%	76.4%	61.8%	62.9%
どちらともいえない	29.2%	27.0%	39.3%	21.3%	22.5%	14.6%	30.3%	22.5%	14.6%	28.1%	25.8%
やや当てはまらない	9.0%	4.5%	6.7%	13.5%	7.9%	7.9%	14.6%	13.5%	4.5%	5.6%	5.6%
当てはまらない	6.7%	5.6%	9.0%	9.0%	5.6%	5.6%	16.9%	4.5%	4.5%	4.5%	5.6%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	68.6%	70.1%	56.8%	71.5%	74.7%	76.0%	48.6%	69.5%	82.5%	66.1%	64.4%

全ての設問において、全学部の肯定回答率を下回っている。

【情報分析基礎、情報分析演習、ネットワーク情報総論Ⅰ】集計

設問	設問内容										
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。										
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。										
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。										
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。										
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。										
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。										
7	【理 解 度】 個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。										
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。										
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。										
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。										
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。										
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	18.0%	20.0%	13.0%	14.0%	22.5%	22.0%	10.5%	19.0%	36.0%	15.5%	22.5%
やや当てはまる	47.0%	44.5%	39.0%	53.5%	48.5%	52.5%	33.0%	47.5%	40.0%	44.0%	42.5%
肯定回答率	65.0%	64.5%	52.0%	67.5%	71.0%	74.5%	43.5%	66.5%	76.0%	59.5%	65.0%
どちらともいえない	24.5%	25.0%	32.5%	22.0%	19.5%	18.5%	35.5%	22.0%	18.0%	29.5%	23.0%
やや当てはまらない	5.5%	5.0%	10.5%	4.0%	4.0%	1.5%	11.5%	5.0%	1.5%	4.5%	7.0%
当てはまらない	5.0%	5.5%	5.0%	6.5%	5.5%	5.5%	9.5%	6.5%	4.5%	6.5%	5.0%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	68.6%	70.1%	56.8%	71.5%	74.7%	76.0%	48.6%	69.5%	82.5%	66.1%	64.4%

設問11を除く全ての設問において全学部の肯定回答率を下回っている。

【日本語情報処理 1・2】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 個人情報保護法やEU一般データ保護規則（GDPR）など、データを取り巻く国際的な動向を理解できた。
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	25.8%	28.8%	9.1%	42.4%	27.3%	28.8%	18.2%	27.3%	37.9%	18.2%	15.2%
やや当てはまる	40.9%	56.1%	40.9%	42.4%	57.6%	47.0%	37.9%	50.0%	42.4%	36.4%	42.4%
肯定回答率	66.7%	84.8%	50.0%	84.8%	84.8%	75.8%	56.1%	77.3%	80.3%	54.5%	57.6%
どちらともいえない	27.3%	4.5%	31.8%	7.6%	9.1%	15.2%	27.3%	15.2%	13.6%	34.8%	27.3%
やや当てはまらない	6.1%	9.1%	18.2%	7.6%	6.1%	7.6%	15.2%	7.6%	6.1%	6.1%	12.1%
当てはまらない	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	1.5%	0.0%	0.0%	4.5%	3.0%
【全学部】											
選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	68.6%	70.1%	56.8%	71.5%	74.7%	76.0%	48.6%	69.5%	82.5%	66.1%	64.4%

全体的な傾向はほぼ同様であるが、とりわけ、【理解度】を問う設問についての肯定回答率が高い。



 **SENSHU UNIVERSITY**

 社会知性の開発をめざす
専修大学



社会知性の開発をめざす
専修大学